

一般社団法人大学英語教育学会（JACET）中部支部 2022年度第1回定例研究会プログラム

日時：2022年11月27日（日）13時20分～18時00分

Zoom開催（参加無料・事前予約制）

参加方法：JACET中部支部ホームページ（<http://www.jacet-chubu.org/reikai.html>）より、
事前に参加申し込みをお願いします

開会挨拶 13時20分～13時25分 支部長 今井 隆夫（南山大学）

支部総会 13時25分～13時35分

研究発表第1室

実践報告 13時40分～14時10分 司会 吉川 りさ（名古屋工業大学）
AIを用いた英文・発音評価のためのMoodleプラグイン
——その改良の過程と学生の反応—— 原島 秀人（前橋工科大学）

実践報告 14時15分～14時45分 司会 吉川 りさ（名古屋工業大学）
Effects of L1/L2 instructions on reading comprehension and writing production:
Focus on the text and paragraph structure Arshavskaia Ekaterina（静岡県立大学）

研究発表第2室

実践報告 13時40分～14時10分 司会 大瀧 綾乃（静岡大学）
英語習熟度の低い大学生の英語名詞句構造把握 溝口 夏歩（岐阜大学：非）
新美 徳康（広島大学大学院生）

研究会研究発表 14時50分～15時35分

【日英インタラクション研究会】

NS-NNS間の英語会話で何が起きているのか：インタラクションの観点からの分析
大塚 容子（岐阜聖徳学園大学）
大谷 麻美（京都女子大学）

講演1 15時45分～16時45分 司会 今井 隆夫（南山大学）
Supporting the practical needs of pre-service English teachers in Japan
Anthony Cripps（南山大学）

講演2 16時55分～17時55分 司会 今井 隆夫（南山大学）
教職課程が教えたこと —レシピの習得から料理の習得へ—
内田 浩樹（国際教養大学）

閉会挨拶 17時55分～18時00分 副支部長 安達 理恵（椋山女学園大学）

発表概要

研究発表第1室

実践報告 13時40分～14時10分

AIを用いた英文・発音評価のための Moodle プラグイン——その改良の過程と学生の反応——
原島 秀人(前橋工科大学)

LMS の Moodle には外国語学習における音声活動に関するツールが様々開発されて来た。中でも Poodll 社が提供する Poodll Solo は AI 技術を取り入れた音声系プラグインとして優れた機能を持っている。学生はスピーチを Moodle 内で録音し、それを自分で再生しながらセルフディクテーションをする。その結果を AI がリモートで評価し、発音そのものが不正確な箇所、発音と英文が合致していない箇所、文法上の間違い、文体的な不自然さ、などを指摘し、採点するという仕組みである。筆者はこの開発者と協力して3年間に渡りその改良に努めてきた。また学生の受け止め方を218名にアンケート調査してみた結果、「人に評価されるものと比べ、評価に妥当性があり、平等で効率も良いと思った」、「予想以上に的確な指摘を受け、驚いた」、「どこが間違っているのかを、細かく正確に指摘してくれたので勉強になった」、など意外にも人間よりも AI に評価されることを肯定的に評価する回答が多かった。これらについての実践を報告する。

実践報告 14時15分～14時45分

Effects of L1/L2 instructions on reading comprehension and writing production:
Focus on the text and paragraph structure

Arshavskaia Ekaterina (静岡県立大学)

This study aims to compare effects of L1/L2 instructions on students' reading comprehension and writing production. Two freshman student groups in a Japanese University took the same reading class and conducted series of outline writing practice, where one group received instructions in English and the other in Japanese. As a result of pre- and post-tests, the English instructions group showed significantly better reading comprehension of details, while the Japanese instructions group showed significantly better meta-knowledge of text structure. For the writing production, the English-instructed group demonstrated a significantly higher writing speed. In conclusion, L1/L2 instructions demonstrate qualitatively different teaching effects.

研究発表第2室

実践報告 13時40分～14時10分

英語習熟度の低い大学生の英語名詞句構造把握

溝口 夏歩（岐阜大学：非）

新美 徳康（広島大学大学院生）

これまでに、高校段階においても中学校で既習の名詞句構造の定着が困難であることが知られているが、中学校や高校で既習の名詞句構造を大学生が十分に把握できているかは未だ明らかでない。本調査の目的は、英語習熟度の低い大学生の英語名詞句構造把握の実態と課題を探索的に明らかにすることであった。大学1年生61人を対象に、高校生の名詞句構造把握の測定のために作成された Advanced Billy's Test を実施した。主な結果として、約3分の1の学生が、This+名詞のカタマリを捉えられず、This is と誤答することが発見された。さらに、正確に和訳できているも構造把握をできていない学生と、その逆の学生が混在していた。以上の結果から、習熟度の低い大学生の名詞句定着度を一概に判断することは難しく、個人差が大きい可能性が示唆された。

研究会研究発表 14時50分～15時35分

【日英インタラクション研究会】

NS-NNS 間の英語会話で何が起きているのか：インタラクションの観点からの分析

大塚 容子（岐阜聖徳学園大学）

大谷 麻美（京都女子大学）

本発表では、日本人が話す英語での会話を談話分析の手法で分析し、そこで日本人がどのような言語行動をとっているのを明らかにする。データとして、英語母語話者（NS）と英語の中、上級学習者である日本人（NNS）の間で行われた自然会話を用いる。そして、参加者間のやり取り、すなわちインタラクションのスタイルに着目して分析を行い、そこに見られるズレを指摘する。日本人としては英語が比較的「話せる」分類に入る学習者が抱える問題を示すことで、英語教育がこれまで取りこぼしてきた課題を検証する。

講演概要

講演 I 15時45分～16時45分

Supporting the practical needs of pre-service English teachers in Japan

Anthony Cripps (南山大学)

This presentation explicates a research project that aims to understand and support the practical needs of pre-service English teachers who intend to teach at junior and senior high schools in Japan. At first the presenter will briefly outline past research projects that aimed to support in-service English teachers before turning to the current project that aims to support pre-service English teachers in Japan. In March 2022, pre-service teachers of English (n=20) at Nanzan University were asked to identify what topics they would like to be included in teacher-training workshops designed to address their needs. Two teaching workshops were created based on these perceived needs. This presentation will focus on the first workshop which was held in June 2022 and discuss its efficacy based on the participants' feedback. The presenter will then map out the design of future workshops and argue for the necessity for practical support considering the current teacher-training structure in Japan. It is hoped that fellow educators will find this presentation useful when considering making changes to their own educational contexts.

【講師紹介】

Anthony Cripps

Dr. Tony Cripps has been teaching in Japan for over thirty years. He is a Professor of English at Nanzan University (Graduate Program of Linguistic Science and the Department of British and American Studies). His research interests include teacher training, learner autonomy, material design, MOOCs, pedagogical innovation, and English for Medical Purposes. He has run numerous teacher-training workshops in Japan and overseas. He is currently working on a major research project (Kaken B – No. 21H00551) funded by the Japan Society for the Promotion of Science (JSPS) which aims to provide pedagogical support for pre-service English teachers in Japan.

E-mail: cripps@nanzan-u.ac.jp

講演2 16時55分～17時55分

教職課程が教えたこと ―レシピの習得から料理の習得へ―

内田浩樹（国際教養大学）

近年の学習指導要領の改訂で、中学校・高等学校における英語教育を大きく変えることが求められています。また小学校でも英語が教科化され、これまでにない変革の時期を迎えていると言えます。一方で、大学の教職課程における授業内容や各都道府県で実施される教員研修の内容は、そうした情勢を反映しているとは必ずしも言えません。教授法の歴史を知ることや明日から使える授業の小ネタを集めることも大切ではありますが、教師が身につけるべきは、授業を組み立てる「視点」だと思ふのです。50のレシピを覚えても50の料理が上手にできるだけです。冷蔵庫に残った食材で料理を組み立てることはできないのです。それぞれのレシピにある料理手順にどういった意味があるのかを知れば、自分の料理が作れるようになります。新課程で教科書が変わってもすぐに良い授業を組み立てることができるようになることは、料理を身につけることにとても似ています。本講演では、授業を組み立てる手順を体感できるタスクをみなさんとひとつひとつ議論しながら授業の「視点」を捉えていきます。

【講師紹介】

内田浩樹（うちだ・ひろき）

南山大学文学部卒、南山大学大学院外国語学研究科修了。愛知県立半田商業高等学校、半田東高等学校、知多高等学校教諭、名古屋短期大学専任講師、鳥取環境大学准教授などを経て、現在、国際教養大学専門職大学院グローバル・コミュニケーション実践研究科研究科長・専攻長、英語教育実践領域代表・教授。専門は、英語教師教育、英語教育プログラム開発、教材開発、語彙指導など。著書は「つむぐ英単語（河合出版）」、「PLAY! 拼裝英單（笛藤出版・台湾）」、「英単語メモリー（Jリサーチ出版）」など。また、「国際教養大学・内田浩樹教授のライブ授業シリーズ」（ジャパンライム）等を通じて授業実践をDVDで発信している。

Hiroki Uchida started his teaching career at a Japanese high school in 1989. He taught students on various proficiency levels for nine years, and he stepped into his new field of teacher training. He is currently teaching at Akita International University, and is Dean and Director of Graduate School, Head of English Teaching Practices Program, Graduate School of Global Communication and Language.



事務局からのお知らせ

- ☆ JACET 中部支部 2022 年度第 2 回定例研究会を 2023 年 3 月 11 日（土）に Zoom にて開催します。JACET 中部支部の本年度最後の研究会となります。研究発表申し込みに関する詳細は、追って中部支部ホームページ（<http://www.jacet-chubu.org/reikai.html>）にてご案内いたします。どうぞ皆様、日ごろの研究成果をご発表いただけますようお願いいたします。



2022 年度第 1 回定例研究会（11 月 27 日）

参加申し込みサイト

<https://bit.ly/3CYBU2i>

定例研究会に関するお問い合わせは、JACET 中部支部事務局までお願いします。

支部事務局：名古屋工業大学 吉川りさ研究室内

yoshikawa.lisa@nitech.ac.jp